

討論会、活発に開く

16日教員、院生、助手の参加

16日 生田地区の助手共闘主催による「全明討論集會」が午後二時から、生田生協食堂で開催された。

現在、出されている各大学の自主改革路線は、立命館大学を下回り、さほどは東のそれにも劣るものである」と主張した。

また教官から唯一参加した小西善次郎学部教授は「自主改革は表面でブルジョア民主主義を装い、現実にはファシズム以外の何ものでない」と指摘、また全共闘の戦術論について「革命の日習闘争の中で、一般学生をいかに巻き込むかが問題となる」と述べた。

席上、一部全共闘側から、「こ

18日 全明共闘（関口成一）主催の「七〇年安保」が午後四時から、生田生協食堂で開かれた。約一〇〇名が集まった。

本間慶幸（学生部長）が挨拶、関口成一（学生部長）の挨拶の後、全明共闘（学生部長）の城戸浩正（東大）が問題提起を行なった。

席上、城戸氏は「七〇年安保の強化は沖縄の強化以外の何ものでなく、沖縄返還によって七〇年安保を乗り切らなくてはならない」と指摘し、「一切食切が十一月決戦にかけられており、あらゆる沖縄奪

21日 十六日に続く「全明討論集會」（院生・助手共闘会議主催）は、本校体育館ホールで行なわれ、約四〇〇名の学生・院生・助手・教授が集まった。今回は新たにM.L.中核系の学生と、福井正雄（法学部教授）が教官として参加した。

主催者の助手共闘から「セクトの政治的動を排し、明大共闘運動の統一と進展のための徹底した討論を行なおう」との呼びかけがあり、討論会に移った。しかし各地区代表の発言めくり、M.L.・中核系とフロント、あるいはフロントの激しいやりとりがあり、

議論を展開していかなければならない」と強調した。

また、S.P.L.中執委員から「バリ攻防に勝利し、明大共闘が六〇年安保と同じく、七〇年安保の先陣に起ろう」と連帯を訴えた。なお引き続き、映画会が行なわれた。

しばし討論は中断した。「全明共闘は大家引き回してある」とするフロント系（福田眞人一部全共闘代表）とフロント（モセクト）に隔り、前回（十六日）の討論集會では、われわれをリンチ攻撃においた」と主張するM.L.・中核系（本間慶幸前二部共闘議長）が対立し、一時は険悪な雰囲気になった。

しかし、この日特別参加した米S.D.S.、ブラックパンサーの挨拶後はスムーズに討論が進み、統一戦線と大学当局の改革路線粉砕に焦点がしぼられ、出席の教員からは次のような意見が述べられた。

「連合教授会では機動隊導入による解決は行なわないことを確約してある。そのため残る近代化路線すなわち改革案による自主規制路線が考えられるがこれは中教審大学そのものであり断固反対する」（篠崎武経教授）「学生を排して、進めていく当局の改革案には反対である」（高橋直樹教授）「教官として、当然のことをやっている者が仲間を一番嫌われている私は学生に教えられた点も多く今後とも諸君とともに歩む」（福井正雄法助教授）。また、友田慶美（院生）は「一正し、ことを正しいといえる学園になるまで信念をもって打ち抜く」と述べた。

この日の討論集會では自主規制路線、具体的には改革準備案を粉砕して行く方向が確認された。特に教員・院生から「内ゲバだけは避けて欲しい」と強く訴えたいが目立った。そして最後に助手共闘から「今後ここからの呼びかけにもこそ参加し、全共闘の運動を深化させその思想性を高めよう」と挨拶があり、午後八時過ぎ散会した。



カットは二十一日本校体育館で行なわれた「全明討論集會」